

地域や家庭と積極的に連携した心に響く道徳の時間

－「シナリオ風指導案」を活用した地域の方との道徳授業づくり－

みなかみ町立水上中学校 教諭 林 武史

1 はじめに

本校の教育目標は、昭和44年の統合以来変わらない「英知：学びては考え、考えては学ぶ生徒」「清純：良心の声に従い、正しきにつく生徒」「友情：広く人を敬い、その長をとる生徒」である。この目標を達成するためには、学校、家庭、地域との関わりの中から、豊かな心やたくましく生きぬく力を育む教育を推進することが必要であると考えられる。

本校の生徒は、多くの人が顔見知りという地域社会の中で、素直で温和に育ってきている。しかし、生活や学習環境が狭くなりがちで、自己を見つめ、よりよく生活し、集団を向上させていこうとする創造的な実践力や集団の連帯感には物足りなさを感じる。一方、本学区は、学校教育に対してたいへん協力的で、学校と地域や家庭との連携が密である。保護者に行った学校評価アンケートでも、「地域の自然や施設・行事・地域の人材を取り入れて教育活動を進めている」ことに好意的な回答がとて多かつた。

本校は、平成11・12年度に文部省(当時)より「地域の人材を活用した道徳教育推進事業」という研究指定を受け、地域の願いを受け止めながら「ふるさとを愛し、21世紀をはばたく生徒の育成」を目指して道徳教育を推進し、生徒を中心に据えながら全職員が一丸となって研究と実践を進めてきた経緯がある。そして、その後も現在に至るまで毎年実践を重ねているが、当時の職員の話と残された資料、理論研究及び授業実践の結果、「教師と地域の方との指導に関する共通理解や情報交換の在り方、そのための時間の確保」「打ち合わせに時間と手間がかかるが、少なくとも5回以上の打ち合わせを行わないと授業が充実しないこと」「地域の方へ教師の意図がうまく伝わらなかったり、地域の方が丁寧かつたくさん話をして時間が大幅に超過したりすること」「多様な価値をもつ地域の方から、内容項目の精選や方向付けを的確かつ効果的に行うこと」といった課題が挙げられた。

そこで、本研究では、上記に示した課題解決を目指し、生き方を学べ専門性をもった方(以下、「地域の方」と呼ぶ)との関わりを大切に心に響く道徳教育を進めるために、「シナリオ風指導案」という形式を用いて、地域の方と共に授業を構想する方法を開発した。

2 研究のねらい

地域の方や保護者との関わりや交流、体験を基盤にした道徳教育を展開するにあたって、地域の方の思いや願い、専門的な知識や技能を生かしながらさまざまな生き方にふれさせ、「シナリオ風指導案」という形式を用いて共に授業を構想したり、心に響く道徳の授業実践を行ったりして、「豊かな心を持ち、たくましく生きぬく生徒」を育てる。

3 研究の見通し

- (1) 地域の方と共に創る道徳の授業において、実際に授業をしているところをイメージしながら、生徒への発問や指示、授業者が最も伝えたいことや生徒の反応などを「シナリオ風指導案」に記述することで、生徒にとっても、授業者や地域の方にとっても、学びがいきなりあり、共に学ぶ意味を感じられる授業を構想できるだろう。
- (2) 共通理解や情報交換の場で、「シナリオ風指導案」を用いて地域の方と協議を行えば、地域の方へ授業者の意図や授業のねらいが伝わり、生徒への接し方や語りが適切なものになるだけでなく、深い理解と学びを可能にした心に響く道徳授業を構築できるだろう。

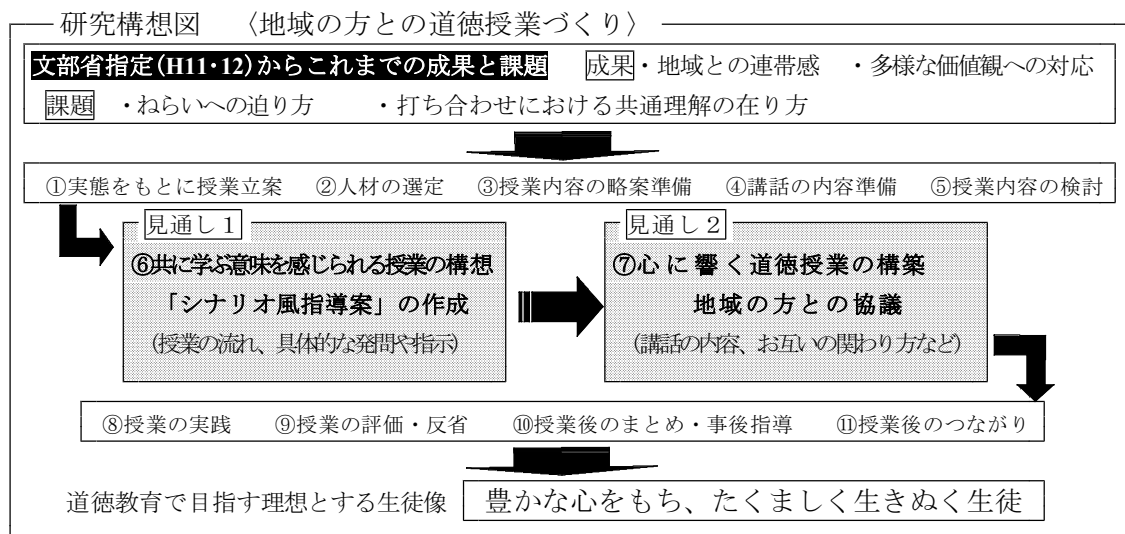
4 研究の内容

(1) 地域の方との道徳授業における基本的な考え

地域の方と道徳授業を創る意義としては、まず、地域の方とふれあい、共に活動することで、人とのコミュニケーションの仕方を身に付け、自分を見つめたり、他人を思いやる心を育てたりすることができることである。次に、自分の価値観や今後の生き方を考えたりするよい機会になることである。授業に招く地域の方は、豊かな人生経験を持っているので、その方の信念や思いは自然と生徒に伝わっていく。生徒は、自分の生活経験の中で培ってきた価値観とは違う価値観にふれ、自分とは違う生き方を知って驚くと同時に、今後の自分の生き方の参考にしたいと思うのである。

本校の生徒は高校卒業と同時に、進学や就職でふるさとを離れる生徒が多い。そこで、地域には「水上に生まれたことを誇りに思っていてほしい」「水上を支える人になってほしい」という強い願いがある。授業を通して地域の方と親密になることで、挨拶や会話、地域行事への参加などが積極的になり、地域の一員としての自覚も生まれる。また、今まで気付かなかった地域のよさにふれ、その素晴らしさを体全体で感じ取ることで、地域を大切にしようとする心、郷土を愛する心が生まれると考える。

したがって、「地域と共に歩み連携して、ふるさとに根ざした道徳教育を進めれば、ふるさとを愛する生徒が育ち、豊かな心が育まれるであろう」という願いをもち、地域の方との授業づくりを進めている。主な活用の視点としては「生き方を知るにはモデルがいる、教師ではできないこと、地域の方でなければできないこと」を掲げ、直接授業に参加していただいている。



(2) 手引き書の作成

地域の方と行う教育活動の実践例としては、道徳の時間での講師、文化祭に地域の方を講師としてお招きする「体験教室」、音楽の三味線や技術科の菊作りなどの教科指導が挙げられる。道徳の時間においては、活用の仕方の工夫に重点を置き、資料4のように類型化して取り組んできた。しかし、地域の方と共に授業を行う場合、どのような手立てで活用すればいいかわからず、躊躇している場面が多々あった。そこで、授業前の打ち合わせ、授業実践、生徒への事前指導や事後指導などのポイントを「手引き書(資料2)」としてまとめた。本研究は、「2 人材活用のポイント」の「(1) 地域の方との打ち合わせ」について視点をあてて取り組んだものである。

(3)「シナリオ風指導案」について

シナリオ風指導案は、実際の授業を想定しながら授業内容を構成するために、一人でもできる模擬授業の方法として、平成14年度より導入している学習指導案の形式の1つである。本校のように、1学年1学級という小規模校では、同学年の別のクラスにおける授業実践で挙げられた課題に修正を加え、隣のクラスの授業に生かすというスタイルを取れない。

授業の流れを発問形式で示し、重要な指示や生徒の反応予測、指導の手立てなどを具体的にまとめ、自分が行う授業をイメージしながら実況中継風にシナリオで表す。これにより、授業者の主張が明確になり、生徒が変わり、授業は充実すると考える。また、一般的な学習指導案に見られる表現ではなく、授業の場面に応じて具体的に記述しているので、教職経験のない地域の方にも理解しやすく、効果的な打ち合わせができるようになると思った。さらに、誰でも模倣して授業実践することができ、引き継ぎ資料としても適切なものになるだろう。

学習指導案とは、比喩的な表現を使えば授業の「シナリオ」「脚本」にあたるものである。したがって、本人だけがわかる内容では不十分である。学習指導案は机上のプランに過ぎず、教材研究を徹底して行い、事前に十分な予行演習を行っておく必要がある。また、学習指導案は自分の授業を人に知らせるために作成することもある。自分の開発した授業を人に伝え、研究授業において配付し、授業者の意図を参観者に伝える。また、授業後の研究会においてテキストとして使用する。

本来、学習指導案は単に学習活動の手順が示されていればよいのではないと考える。いろいろな形式や内容の学習指導案が見られるが、従来の学習指導案の多くは、生徒にどのような言葉掛けをしたらよいのかが不明であった。優れた学習指導案は、授業者の授業観、教材観、指導観がにじみ出てくる形式・内容になっており、授業者の主張が見えてくる。学級の生徒の顔が浮かび、どんな生徒に育てたいのか、理想の生徒像に向かってどのような手立てで指導していくのかが明確になっており、指導・支援の創意・工夫が表現されている。さらに、授業を参観した人が同じような指導をしたいと思った時に、試行ができる形式になっていることが望ましく、読んだ学習指導案をそのまま使用できるように表現されていることを目指し、シナリオ風指導案を作成する(資料3の⑥「シナリオ風指導案」

地域の方との道徳授業について みなかみ町立水上中学校

地域の方から話を聞いたり、直接指導を受けたりすることで、生き方や考え方を直接学んだり、水上のよさに改めて気づいたりすることができ、自分たちの住むふるさとに対する愛着が生まれてくると考える。また、貴重な体験や活動をしている地域の方との関わりを通して、自分の生活を見直したり、その生き方にあこがれや感動をもちたりするなど、自己の未来について深く考えるきっかけとなることも期待される。

道徳教育において、読み物資料や教師の説話だけでなく、地域の方と共に授業をつくることは、地域のよさや人の生き方について、生徒の興味・関心や感動を呼び起こし、より高い道徳的な価値に気付かせることができ、心に響く学習につながると考える。

1 人材リストの作成
地域の方に協力していただき、以前からあった「人材バンク」を修正、追加している。道徳の時間に限らず、広く学校教育に協力していただける方を掲載している。

2 人材活用のポイント
(1)地域の方との打ち合わせ
この事前の協議が最も大切なので、少なくとも依頼時を含めて3回は実施したい。
ア 教師の願いをきちんと伝え、授業の展開やねらいについて説明し、協力を願う。(1回目)
イ 授業の講師としてお願いする方の生き方や思いについて話を聞き、「生徒に何を伝えたいか」ということを取材する。(2回目)
ウ 教師の願いと地域の方の思いとが生かされるよう、授業の流れと時間配分を綿密に協議する。(3～5回目)
エ 2回目くらいの打ち合わせからは、授業の概要案を用意する。この際、活用する地域の方が教育関係者以外の場合は「学習指導案」を理解していただくことが難しいので、台詞(中心発問や補助発問を明記する)や時間配分、教師の思いをまとめた「シナリオ風指導案」を作成すると効果的である。「シナリオ風指導案」の作成法については別紙の通りである。

(2)授業実践
授業の中で一番効果的な場面で話していただく。また、地域の方の紹介のしかたを写真やビデオ、BGM、実際の服装などで演出し、興味・関心を持たせる。
ア 前半または後半、終末に、資料のねらいにあった話を聞く。
イ 地域の方の体験や思いを中心に、じっくり話を聞く。
ウ 話の中に活動を取り入れる。
※ビデオ・写真・インターネット・手紙・紙芝居・役割演技・手話・点字・歌などを活用する。

(3)生徒への事前・事後の指導
ア 前時の道徳や特別活動、総合的な学習の時間で、同じような価値の資料を扱い、意識を高めておく。
イ 朝の会や帰りの会などで、関連したことを話題にし、意識させておく。
ウ 授業の感想や心に残ったことを手紙に書かせ、お礼として届ける。
※必ず行う。なお、教師もお礼状を書いたり、実際に足を運んだりする。

(4)授業の評価・反省
ア 授業のねらいが達成できたかどうかの確認をする。
イ 地域の方との協議が十分であり、準備物などが適切であったか。
ウ 地域の方を活用した場面や、教師と地域の方の役割分担が適切であったかどうか。
エ 生徒からも意見や反省を聞き、今後の授業に役立てるようにする。

(5)その他
ア 授業の講師としてお願いした方に、今後も本校の教育活動に協力したいと思っていただけるよう留意したい。また、学年通信や学校行事の案内を送り、本校の教育活動に引き続き関心を持っていただくように配慮していく必要がある。
イ 日頃から地域の行事に足を運んだり、PTA活動に積極的に取り組んだりするなど、普段から信頼関係を築いておく。

資料2 手引き書

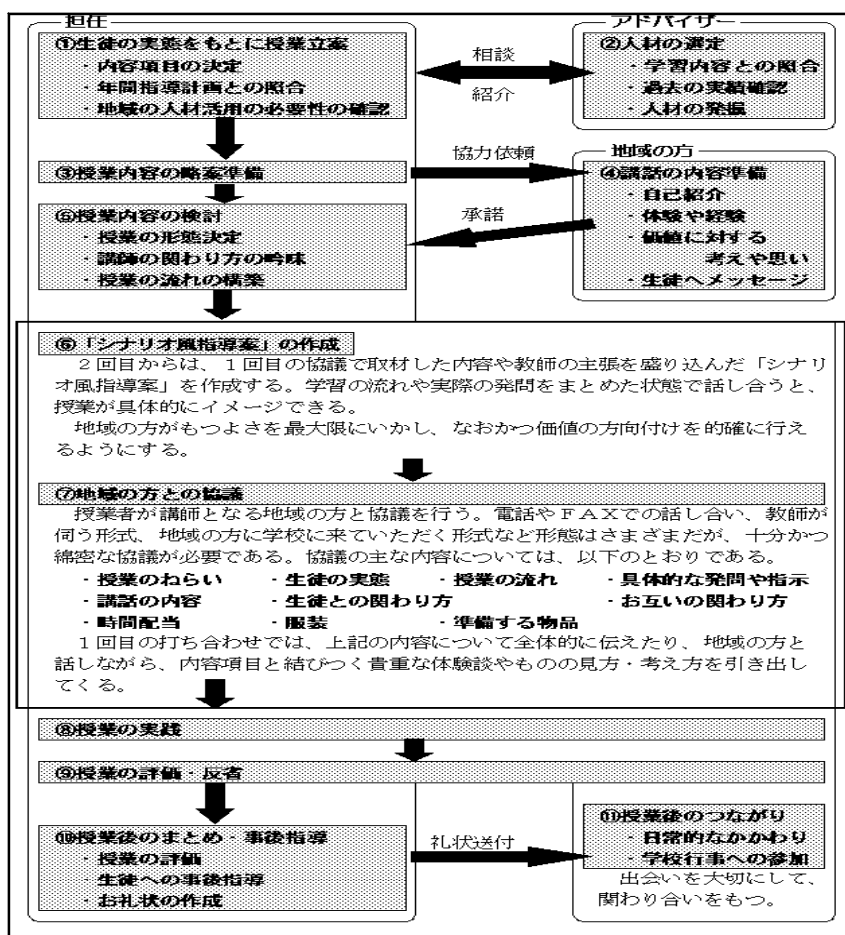
の作成)。以下に、地域の方と共に創る道徳授業には必要不可欠なシナリオ風指導案の条件を示したい。

- ア 授業者の主張(授業観・教材観・指導観)が明示されている。
- イ 発問・指示が明示されている。
授業の流れを発問という形で示し、指示や指導の手立ても、生徒に話す言葉で具体的に記述する。教師が授業の中でどんな発問・指示をするのかが明示してあれば、シナリオ風指導案に書かれている通りに授業を行っていけばよいのである。一方、地域の方は自分の役割を正しく認識し、焦点を絞って語ることができる。
- ウ 予想される生徒の反応を示している。
- エ 指導の内容と方法が明示されている。
- オ 理想とする生徒像と目標を示している。

(4)「シナリオ風指導案」を用いた地域の方との協議

「一授業、一価値、一資料」を原則に授業を組み立て、地域の方と事前に何回か協議し、授業に臨む。その際、「地域の方でなければできないこと」「教師にしかできないこと」をきちんと区別し、それぞれの役割を十分に果たせるような授業の構成を心がける。

これまでの実践から、地域の方にとって生徒の前で話すことは、教師が考える以上に緊張感や抵抗感を感じることがわかった。入念な打ち合わせを繰り返しても、その場の流れで、確認していたこととは違う方向へと進んだり、わかりやすく伝えようと丁寧になり話が長くなったりするなど、予期せぬ事態へ陥ることも十分にある。T・T形式で授業を行うので、流れは決めておいた方がよい。そこで、決められた授業時間内にスムーズにやり取りを進めるためには、教職経験のない(学習指導案を読んだ



資料3 地域の方との道徳授業づくり

ことのない)地域の方にもわかるような詳細なシナリオが必要であると考え(資料3の「⑦地域の方との協議」)。

シナリオ風指導案を作成することは、映画の台本を書くようなものであるから大変な労力である。しかし、少ない時間で協議を行えるほか、授業に携わってくださる地域の方にはわかりやすく、授業者にとっては「自分は何を教えたいのか」「生徒に何を学んでほしいのか」などを明確にすることができ、教材研究におけるたいへん有効な手段である。

5 授業実践

(1) 地域の方との道徳の時間におけるの活用例

今までに実践した内容は、「生命の尊重」「郷土愛」「礼儀」など多岐に渡り、道徳授業にお招きする地域の方も町観光協会のHP担当者、旅館の女将、双子を持つ母親、温泉街の活性化に取り組んでいる方など多彩な顔ぶれである。この中でも、2学年で行う生命尊重の授業は毎年行われており、年々改良され、現在は担任・地域の方(保護者を含む)・養護教諭という三者におけるT・T形式が定着してきた。

学年	主題名・価値・資料名	タイプ：地域の方とその活用内容
1	共に生きる 4-(1) 集団生活の向上	A：水上の森林を管理する方から、ブナの優しい生き方を学んだ。
2	ふるさとへの思い 4-(8) 郷土愛	A・B：温泉街の活性化を目指し、地域のための行動の価値を知った。
	生命ってあったかい 3-(2) 生命尊重	B：保護者から誕生の様子を聞き、生命の大切さを学んだ。
3	言葉の重み 2-(1) 礼儀 ※本校HPに指導案を掲載	A：町観光協会HPの運営に関する苦労と熱い思いを知った。
	おもてなしの心 4-(8) 郷土愛 ※資料5・6・7参照	A・B：旅館の女将から、お金にならないサービスの大切さを知った。

資料4 地域の方との道徳授業の実践例 A(専門家) B(保護者)

(2) 3年生の道徳実践例 主題名「おもてなしの心」4-(8) 郷土愛

女将として温泉旅館を切り盛りし、町の温泉旅館協同組合婦人部長やおもてなし委員会の委員でもある地域の方が、「心の観光」に即した対策を紹介し、郷土愛について考えた。お招きした地域の方が卒業生の保護者であったため、生徒や学校の実態をよく知っており、生徒との直接的なふれあい、心の交流を図ることができた。また、本校がよき伝統として認識している「挨拶」を賞賛していただいたことで、「自分も町の営業マンとして、挨拶によるおもてなしや町の美化に努めたい」と感想を述べるなど、郷土や学校の「よさ」への認識を深め、郷土への関わり方をより深く考えるきっかけとなった。さらに、授業の様子は町役場のHPや広報誌でも紹介されるなど、発信的な授業実践となった(資料5)。

地域の方との道徳授業を行うにあたって毎年課題に挙げられていたのが、打ち合わせや授業の進め方の難しさだった。そこで、従来の学習指導案を活用した打ち合わせを脱却し、シナリオ風指導案を作成して地域の方と協議を進めた。シナリオ風指導案を使用して直接

行った協議(取材を含む)が2回、その後はFAXや電話のやりとりで共通理解を図ることができた。その結果、本時のねらいを焦点化して生徒に伝えられたり、エピソードを紹介する際の説話のスリム化に役立った。参照資料は6・7。

10万人増客大作戦会議

「おもてなしの心」の大切さ、道徳の授業でも取り上げられ、着実に町内へ広がっています。

水上中学校の「地域人材活用」で、10万人増客大作戦会議おもてなし委員の須藤美由香さん(旅館組合女性部長)による講演が行われました。テーマは勿論「おもてなし」。この日の授業を素晴らしいものに仕上げるため、道徳の授業を担当している林誠史先生が、日頃「おもてなし」について考えていることを言葉にしましたその一部をみなさんに紹介します。

水 上中学校に赴任して「地域人材活用」の道徳授業に出会い、今年で五回目になります。昨年度ある保護者の方を講師に迎え郷土愛の授業を行ったときに、「おもてなし」という姿勢を大切にしたいとお話されていたことがずっと心に残っていました。その時から、もつと地域人材を活用して郷土愛の授業を行うとしたら、是非今回お願いした講師にお話をさせていただきたいとも考えていました。きっかけが見つからず、今日に至ってしまいました。胸に付けている方々を町内で目にするようになって、五月に構想をお話し、快く講師を受けていただきました。

道 徳の授業って楽しいなあーと感ずります。と同時に、責任の重さを考えると難しいなとも思います。いつも「道徳は漢方薬」のようなものだと思うので、授業を考えています。即効性のある特効薬というわけにはいきませんが、ジ

自 分の濟んでいる地域に誇りを感じ、郷土愛を持つ、また、その文化にも誇りを持つことが「おもてなしの心」の原点ではないでしょうか。もちろん、おもてなしの町づくりは、学校づくり・自分づくりにもつながります。そんなことを考え、実践できる子どもたちを育てていきたいと思っています。

ワジワと効き目が出て、心が健康になっていくようなものではないかと思うのです。だからこそ、まず道徳の時間をしっかりと確保すること、そして、教師が先頭に立って真剣に取り組むことが大切だと思えます。もちろん、教師自身が生徒以上に楽しむことを忘れてはいけません。

「おもてなしの心」について学習しました。ちなみに「おもてなし」の辞書的な意味としては、「御馳走する・献待する」とあり、読んで字の如く、「おもてなし」とは何かを持って事(御馳走・献待)を成すということになります。また、その語源は「表裏のない気持ちでお客様を迎える」とする説も聞きます。どんなに観光資源(見どころやグルメ、レジャーや温泉など)が充実していても、「また来た」と思わせるには「筋道ではないませぬ。しかし、「おもてなし」がさりげなく準備された場所に行くと、心が安らぎ楽しいものです。そして、そこには必ず人のあたたかさがあります。人の魅力は忘れられないものです。人の印象、その地域の印象も変わります。「おもてなし」は笑顔が前提であり、心の窓を開く挨拶があつて、環境がきれいであることが求められます。したがって、生徒にもできる明るい挨拶や最高の笑顔は、何物にも代え難い最高の観光資源と言え物ではないでしょうか。

資料5 授業の様子を紹介していただいた町広報誌「広報みなかみ」

段階	学習活動と主な発問	新	新	予想される生徒の反応	欄	支援及び指導上の留意点
導入 水上町を知る	1. 水上町で誇りにできることを振り返る。 ①水上町の誇りについて、クイズを通して自分の認識を確認する。 ○水上町を訪れる観光客数 ○水上町が自慢できるもの ○水上町が観光の発展において大切にしているもの			○積極的に3択クイズに参加する。 「年々減少している」 「自然(水・空気・緑)」 「温泉」「ダム」 「住民のやさしさ」 「施設や設備の充実」	7分	・アンケート結果や町おもてなし委員会の報告をもとに、この時間に取り上げる話題が「水上町」であることを知らせ、郷土の現実から問題に対する意識を掘り起こすようにしたい。 ・楽しい雰囲気の中で、一人ひとりが郷土の一員(水上町の営業マン)であることを自覚できるようにする。
	<p>先日のアンケートで、みなさんが水上町のことをどのように考えているのかがわかりました。そこで、半数以上の方が大好きと語る水上町について3択クイズを作ってきました。みなさんの暮らし水上町のよさや特徴は何ですか。今日の苦楽園の時間は、水上町の谷川で旅館を営む女将さんから「おもてなしの心」について学び、自分たちに何ができるかを一緒に考えていきましょう。</p> <p>今日の学習課題「おもてなしの心で水上町を創ろう」</p>					
展開1 心の軌跡 おもてなしの心	2. 心の観光、おもてなしの心について考える ②おもてなし委員会とは何か、メンバーの熱意はどこからくるのかを考える。 ③プロジェクトを利用して、スクリーンに地域の発展のために「おもてなしの心」を持って働く人の写真を表示する。			○気づき、心くばりの感じられる働きぶりに共感する。 「『おもてなし』って何」 「故郷を愛する気持ちが活動の源なんだなあ」 「いい話だな」 「かっこよく、美しい生き方だな」	20分	○講師の話聞いて、水上町を支えている人の気持ちを考える。 ・感じたことや思ったことを自由に発表できるようにする。また、自分と異なる意見も受け入れられる雰囲気作りを心がける。 ・事前に取材した写真を見せることで、郷土の発展に貢献する活動への興味・関心を高める。
	<p>今年、水上町に「おもてなし委員会」ができました。ここでは、「10万人増客大作戦」を展開していて、その内容を見ると、皆さんも知らないうちに「営業マン」になっていました。クイズでも確認したように水上には谷川岳や温泉、スキー場をはじめとして、たくさんの観光資源があります。でも、この委員会では形のない「心の観光」を目指しているのです。興味深い取り組みを講師の方からお聞きしましょう。</p> <p>④講師の話聞いて、心に残ったことをワークシートに記入する。 「人を思いやることの大切さがわかった」 ・様々な活動の中に、郷土への思いがあることに気づくようにする。</p>					
展開2 職業の軌跡	3. 水上町の発展について考える ⑤「心の観光」に目をつけたメンバーの考えをどう思うか。 ⑥水上町をよりよい郷土にするためには、どんなことが考えられるか、グループで検討する。 ○「心の観光」に即した対策 ○自分にできる「おもてなし大作戦」			○アイデアを出し合うことで、明るい将来を考える。 「町の行事に参加する」 「きれいな水上にしたい」 「自然保護に努める」 「町で出会った人には、自然にあいさつができるようにする」	15分	※【教師の願い】話し合い後の発表の場面では、講師との交流を通して価値を主体的に深め、地域社会の一員として生きていく自覚を持てるようにする。 ・水上町に期待することや夢、自分たちができるアイデアを出し合い、生徒の生活と郷土の結びつきを確認する。
	<p>みなさんの大好きな水上町をもっと輝かせるために、考えたアイデアを発表してください。また、発表したものに対して、講師の方の経験をいかしたアドバイスや感想をいただきます。</p> <p>⑦講師が話し合いの感想を述べたり、生徒のアイデアを賞賛することで講師との交流を図っていく。 「自分たちでも、今すぐ町のためにできそうなことはあるんだな」 「勇気を持たなくてはいけません」 ・よりよい例を講師自身が語ることで、郷土を愛する心や郷土のために働く意義に気づき、価値に迫っていきけるようにする。</p>					
終末 職の町づくり	4. 自分と郷土の結びつきについて考え、本時の学習をまとめよう。 どんな状況においても、「人と人との心の絆、つながり」が原点であることは変わりません。これからの時代を生きる主役として、ぜひ他人の「楽しい、悲しい、嬉しい、寂しい、美しい、優しい」といった気持ちを自分のものとして考えられるような人間に成長していきましょう。			○今後の活動を意識し、郷土への思いを整理しながら文章化する。	8分	※【教師の願い】水上町の発展に寄与しようとする主体的態度を育てたい。
	<p>⑧郷土の未来や発展について、大切にしていきたいことや考えをまとめよう。 ⑨自己評価・相互評価・授業評価を行い、ワークシートに記入する。 ⑩教師の話を聞く。 「水上町のことをよく理解して、町民の一員として自分が関わることからやっていきたい」 「行事への積極的な参加や挨拶運動で、水上を盛り上げていきたい」 ・授業についても5段階で評価し、授業改善につなげていく。 ・まとめとして、講師から「おもてなしの心」についての考えを聞く。 ・よりよい町づくりのあり方について、ある建築家のコメントを伝え、余韻を残す。</p>					

(5) 評価

- ・講師の話聞き、学習課題に迫る意欲的な話し合いができている。(活動⑥⑦の発表や観察から)
- ・水上町を創る一員としての自覚を持ち、郷土に対する愛着と誇りを深め、郷土の発展に貢献しようとするという意欲を持っている。(活動④⑧の記述から)

はじめに
 本時の1時間では、「薬士への思い」「おもてなしの心」について、授業を前にまとめてみました。以前、高校の国語の授業を参観させていただいた際に、私たちが作るような学習指導案ではなく、以下のようなシナリオ風の授業を参観させていただきました。この形式は、模擬授業を行うことが難しい運徳の授業においては、パソコンに向かいながら1時間の流れを考慮するよりタブレット・モニタとなり、有効な教材研究の手段とされています。では、得采の水上を担う生徒が成長していく姿を夢見て、頑張りたいと思います。

実態の授業
発問1 この前のアンケートで、みなさんが水上町のことをどのように考えているのか少し見えてきました。半数以上の人が水上のことを好きだといい、2/3以上の人が水上に生まれてよかったですと答えています。でも、得采は水上に住みたくないと思っています。うーん、みなさんは本当に水上のことを知っていますか。これから、みなさんの大好きなクイズで、水上の特徴やよさをどれだけ知っているか確かめてみましょう。

●3択クイズ用のカード(青・黄・赤)を配布する。また、プロジェクタで、スクリーンに問題を写します。
 質問1 対してはA(青)・B(黄)・C(赤)のカードを配布し、これを上げさせます。この方法は、指導者としては生徒の思考の傾向が一瞬のうちにはわからなくとも(個々の考えは読み取りにくいですが…)、生徒に対しては授業への参加意識や自己存在感を高め、自己決定の場を与えるというメリットがあります。
 質問1 現在、水上町には1年間にどのくらい観光客が来ているでしょうか。 答60万人
 質問2 水上町では、観光客の増客をねがっています。どのくらいでしょう。 答10万人
 質問3 水上町にはみなさんにも役目を与えています。それは何でしょう。 答農業マン
 質問4 少しずつレベルアップしていくように難易度を考えました。それにしても、「おやっ」と思われる内容(正解が多いため、生徒は興味関心を持つと予想されます。また、ここでは自由発言を許し、研究授業授業中の人手だてを考慮していきたいと思えます。「エー」という驚きや「やっべり」といふ納得、どちらの空気を感ぜられるか楽しみます。この後の授業を展開するうえで、このクイズは重要な意味を持ち、これを受けて講師の語につなげていくのです。

説明1 みなさん、自分の水上理解度はどのくらいでしたか。まだまだだったかな? そこで、今日の苦果の時節は、谷川で「金鑛鎮せいらぎ」という旅館を営む須藤幸由直さんをお招きしたので、一緒に水上町の未来を考えていきましょう。今日のキーワードは「おもてなしの心」です。

●車線に学習課題「おもてなしの心で水上町を創ろう」を貼ります。
 本授業で育てたいことは、以下の通りです。
 ①自らの郷土を愛する心 ②人々の努力や願い、思いを感じ取る心(共感する心、受容する心)
 ③自身の生き方をより深く考えようとする心
 そして、これらを育てるためには、生徒全員が新しい情報にふれ、互いの考えを交流する場、つまり「自分づくりの場(時間)」を設ける必要があります。3Aの生徒の様子をつかんできていただきます(建物には、授業の最初から教室の前方に座っていただく。3Aの生徒の話をきいていただくことができます。登場していただき、旅館の女将さんというのが一目瞭然となるようにしていただくのとありがたいので説明は行いません(話の中で自己紹介していただく)。

説明2 先ほどのクイズでもわかったように、水上町にはスキー場や温泉、谷川岳など有名な観光スポットがあるのですが、最近観光客が減ってきています。そこで、今年の2月、「10万人増客大作戦」が提案されました。この会議は6つの分野に分けられた委員会でも構成されていて、須藤さんはその中の「おもてなし委員会」の委員でもあるので、委員会が生まれてきた経緯を教えてくださいましょう。よろしくお願います。

●講師の話をスライドに展開した上で、時間を管理したりするために、講師に話を任せきりにするのはなく、期待をいってほしいと教えてください。また、生徒が話を集中して聞き、よりわかりやすく伝わるように写真を見せながら話を進めていきます。

ここが、この授業のメインになります。授業のイメージは、NHK「プロジェクトX」です。アンケートでは、半数以上の人が水上を好きながらも、得采は水上に住みたくないと考えていることもわかっているので、「今の水上は魅力的ではないな」とか「水上はもう少しちゃっちゃとんだらう」などと、これ以上イメージを持たせまいように注意したいと思えます。

エピソード① 「おもてなし委員会」設置の経緯 ※あくまでも側面です。須藤さんの考えや言葉でお願いいたします。
 水上は従来のまま、交通の便がよくなった観光資源が豊富だったけれど、黙っていても観光客が訪れるという時代が続きました。しかし、観光客はピーク時の半減近くまで落ち込み、新しい魅力を種々奮ねる努力を怠ってきたのではないかと、この委員会で、水上町には谷川岳をはじめとする大自然や温泉、スキー場やグルメなど、お客様に提供できる観光資源がたくさんありますが、観光の根本になるのは「人の心」と捉え、優しい言葉やお客様に提供できる観光資源を大切にする必要があります。つまり、お金にはならない「おもてなしの心」に注目したのです。そのため、町全体が、物的なサービスを提供するのではなく、「外から来た人が気持ちのよい時間を過ごせる」「また来たい」状況になることをねがいとしています。

説明3 ありがとうございます。お話しいただいた「おもてなし委員会」では、具体的にどのような活動を行っているんですか。
 視覚にも訴える効果は大きいからです。
 ここでは2つの工夫を考えています。1つ目は、船を区切るということです。これまでの反省から、講師の方のお話はいつても丁寧で、どうしても真くなる傾向があります。一方、生徒の集中力と理解力には限界があり長い話には耐えられません。そこで、今回はスライド説明のような形で短い話をいくつもしていただく予定です。また、2つ目の工夫としては、講師の方と生徒の交流を図ることです。地域人材採用の授業でいつも課題になっていたのは生徒と講師の交流の難しさです。そこで、今回は講師が昨年度の卒業生の保護者ということもあり、生徒の顔や名前を知っているという利点をいかし、話を聞きたい・してもらいたい生徒を直接指名し発言させる形式を採用入れます。
 エピソード② 「おもてなし委員会」取り組み ※あくまでも側面です。須藤さんの考えや言葉でお願いいたします。
 講師の方の話では、今年2月に始まったばかりの委員会なので、みんなで知恵をしぼり、手探り状態で活動を進めているようです。それに、「おもてなし」の幅は広く、わたしたち教員の仕事と同じように、奥が深くやりがいのかもしれないかもしれませんが…。目に見える具体的な活動としては、「おもてなしの心」と記載されたバッチを付けたり、水上町温泉旅館同組合構入部「おかみの会(別名 しらさぎ会)」が「民水上駅舎内に花を生けたりする活動を行っている他、駅前の商店街に「手荷物お預かりいたします どうぞお気軽にお立ち寄りください」や「道がおわかりにならない方 どうぞお気軽にお立ち寄りくださいませ」といった看板を掲げたり、温泉街や道の駅(水沼行館)等では無料で傘を貸し出ししたりしています。ここでは、町民全員がいるような面を心一つにして、それぞれの立場で力を発揮してこうというコンセプトのもと、一歩先のおもてなしを提案し頑張っている様子をお伝えしていきます。

エピソード③ 旅館での取り組み ※あくまでも側面です。須藤さんの考えや言葉でお願いいたします。
 ●ここでも、講師の方の話をしっかり理解できるように、プロジェクトで写真を撮影します。ただし、エピソードの後半は、映像にのりにくいおまの話を聞かせることに集中させます。
 打ち合わせをしたところ、講師の話では、どれか「おもてなしの心」と呼べるものなのか、わからなないので、おそろく、お客様に満足していただけたらいいようなサービスにはギリギリなく、旅館のお客様を楽しんでいただく仕事としては、おもてなしが当たり前にあり自然になっていくからかもしれません。それでも取っていただく細かい空気配り、お客様の体格に合わせて様々なサイズのスリッパや浴衣を用意するとか、アレルギーを考慮してソファが軟・羽毛・ユーカリの3種類の絨革を用意するというものがありました。また、母になってから気づき改善した点としては、子どもとの視点に立つということでした。和風旅館の特性として、どうしても幼い子どもでもたちまると感じる点が多いようです。そこで、大人と違うかわいらしい座布回や枕、食器などを用意する他、家族で楽しめるボードゲームを無料で貸し出し、絵本コーナーを設けたりしているそうです。また、目に見えないサービスとしては、おしほり、温かいお菓子は季節に合わせて作り替えているものを出したり、食事に関しては高齢者には食材を細かく切り、幼い子には火傷しないように温度を考慮して料理を出すなどの気配りをしているという話を語っていただきました。

<p>目標および期待する生徒像</p> <p>●「ふるさと」は遠くにありて思うところ、郷土への思いは、どのような時に高まるのだろうかと考えられる。毎日ふるさと水上で過ごす水牛生にとっては、郷土に対する意識が希薄であつても不思議ではありません。しかし、ふるさとに対する愛着心は誰もが持っているはず(いや、そう願いたいものです)。大学(関関)を卒業し、ふるさとに戻ってきた人間としては、「水上に住みたいと思わない」と半教以上の生徒が考えていることには、正直なところショックでした。また、水上中勤務5年目となり、水上のことを大好きに思っている一人の人間としても…。今回の授業は、このデータがきっかけで生まれたと言つても過言ではありません。だから、本時を通して、水上をもっと好きになり、そして大切に思い、水上の発展に貢献しようという心を少しでも育むことができればと願っています。</p>	<p>目標および変化…地域社会の一員としての自覚をもつてふるさとを愛し、社会に尽くしている方に尊敬と感謝の念を深め、ふるさとの発展に努める。</p>	<p>●道徳の授業では、読み物資料を用いて考えたり感動したりすることが多いと思います。しかし、今回の授業では、読み物資料は一切使用しません。講師の話そのものが、価値ある生きた教材です。ただスゴイ人だ、いい話だと終わってしまうのではなく、道徳的実践力を養いたいと思います。他人のことではなく、自分のこととしてとらえななければ意味がありませんから…。</p>	<p>●地域の人材を活用した道徳授業について 本時を執想したきっかけは…水上中学校に赴任して「地域の人材を活用した道徳授業」に出会い、今回で5回目になりました。一昨年度、ある保護者の方を講師に迎え郷土愛の授業を行ったときに、「おもてなし」という姿勢を大切にしたいとお話されたことかおかつと心に残っていました。その時から、もし次に地域の方と郷土愛の授業を行うとしたら、ぜひ今回お願いした講師にお話していただきたいとも考えていました。きっかけが見つからず、今日に至ってしまいましたが、ようやく念願が叶いました。また、「おもてなしの心」と記されたリボンを胸に付けている方々を町内目にするようになり、5月に構想をお話し、快く講師を受け取ってくれました。地域の人材を活用した道徳授業についてもネットとつながりがあるので、お互いの考えを交換し共有することができました。</p>	<p>●おむけに 道徳の授業って楽しいなあーと感じます。と同時に、責任の重さを考えるのも難しいなあとも思います。いつも「道徳は漢方薬」のようなものだと思ひ、授業を考えています。即効性のある特效薬というわけにはいきませんが、シワジワと効き目が出て、心が健康になっていくようなものではないかと思うのです。だからこそ、まず道徳の時間をしっかり確保すること、そして、教師が先頭に立って真剣に取り組むことが大切だと思います。もちろん、教師自身が生徒以上に楽しむことを忘れてはいけないと思ひますが…。この授業では、「おもてなしの心」について学習しました。ちなみに、「おもてなし(待て成す)」の辞書的な意味としては、「御馳走する・款待する」であり、読んで字の如く、「おもてなし」とは何ぞ持って事(御馳走・款待)を成すということになります。また、その語源は「教養なし=教養のない氣持ちでお客様を迎える」とする説も聞きます。どんなに観光資源(目どころやグルメ、レジャーや温泉など)が充実していても、「また来た」と思われるには一筋縄ではいきません。しかし、「おもてなし」がさりげなく準備された場所に行くこと、心が安らぎ美しいものです。そして、そこには必ず人のあたたかさがあります。人の魅力は隠れないものです。人の印象で、その地域の印象も変わります。したがって、生徒にもできる明るく、心の窓を開く挨拶があつて、環境がきれいであることが求められます。したがって、生徒にもできる明るく、挨拶や最高の笑顔は、何物にも代え難い最高の観光資源と言えらるのではないのでしょうか。自分の住んでいる地域に誇りを感じ、郷土愛を持つ。また、その文化にも誇りを持つことが「おもてなしの心」の原点ではないでしょうか。おもてなしの町づくりは、学務づくり・自かつづくりにもつながります。そんなことを考え、実践できる子どもたちを育てていきたいと思ひます。 授業参観ありがとうございました。</p>
--	---	---	---	---

<p>発問2 このような「心の観光」に目をつけたメンバーの考えをどう思ひますか。 この発問は、授業の流れ、特に生徒の様子を見て、発問するかしないかを検討します。「スゴイ」や「わからぬ」といった返答では…。子どもたちの心の中で、人や地域のことを思いや身体的に活動する方への尊敬する心が芽生え、それを観察から感じられることができたなら徳問と思えるからです。</p>	<p>発問3 「おもてなし委員会」の活動を見習ひ、水上町をよりよい町に発展させるために、みなさんが今できることを考えていきましょう。まず、一人ひとりがワークシートに記入してください。 (時間を見計らつて)グループで意見を交換してください。あとで代表の人に発表してもらおうので、意見をまとめておいてください。 (さらに、時間を見計らつて)グループで話し合ったものを発表してください。また、発表したものに對しては、講師の方の経験を生かしたアドバイスや感想をいただきます。いい意見があれば、明日聞かれる「おもてなし委員会」で発表してもらえませんかよ。</p>	<p>●一人ひとりが自分の考えをもってから、グループで話し合えるのが理想です。しかし、アイディアの乏しい生徒に意見を強制するのは難しいので、友だちの考えを聞いて共感したり、よりよいものに集り上げたりする学習ができればいいと思ひます。簡単な(短時間で)話し合いの後、グループの代表が発表し、考えをクラス全体で共有します。また、講師の方にコメントをいただきた交流を図ります。これは、講師の方が一番楽しみにしている時間です(もちろん、指導者である私も)。柔軟な考え方ができる子どもらしさに期待しています。生徒が考え出すアイディアとして予想されるのは、町をきれいにする(ゴミ拾ひ)、明るく挨拶するなどで、お客様に来てよかったなど思ってもらえるように、自分ができることを精一杯やりたいという意志があらわれることを願っています。講師の話が生徒の心にストンと落ち、郷土を愛し守っていくことの大切さに気づき、郷土の発展に貢献しようという心構えや態度、道徳的実践力へと結びつこう、考える時間を確保したいと思ひます。</p>	<p>まとめ1 最後に、須藤さんにとって「おもてなしの心」とは「おもてなしの心」の姿勢を文章化することはたいへん難しいことと思ひますが、生徒にとつてもわかやすい一言で表現していただきます。生徒の道徳的実践力育成につながり、生徒の心についてまでも残る一言になるでしょう。</p>	<p>まとめ2 この1時間で、水上の町や人の魅力がたくさん見つけられました。「おもてなしの心」で水上を制つていったら、きっと素敵な街になるでしょうね。 そこで、最後に紹介したいものがあります。こんな新聞記事を見つけてきました。5月18日付の上毛新聞で紹介された藤野孝次町長のコメントです。 また、今年度にも企画オープンする「ぐんま昆虫の森」を設計した安藤雄雄さんの言葉の中に素敵なものがあつたので紹介します。 今日も、いい授業になりました。この1時間を振り返つて、考えたこと・思つたことをワークシートにまとめてください。</p>	<p>●町長や安藤雄雄氏のコメントに当たっては、この後に感想をまとめる時間を少しでも多く確保するために、事前に記事を読み大した掲示資料を作っておきます。また、生徒にはついでに、同じ資料を自分のワークシートに貼れるよう、印刷物を配布します。 ●本時の感想を書き、授業の評価をします。 盛りだくさんの授業になつていたので、感想をまとめ時間を生み出せないかもしれないかもしれません。その場合は、帰りの念まで書いてもらおうようにします。しかし、できる限り時間を確保し、今後の生活にいかせるように、まとめの時間を5分くらいとり、感想を書く時間を設けたいと思ひます。また、苦業の時間(道徳)では、毎時間、授業の評価をしてもらっています。評価項目の「楽しかった度」と「ためになつた度」は相応することもありますが、「資料」はよかったですか、や感想と合わせて、今後の授業構想に役立っています。この取り組みは、生徒にとっては1時間を振り返つてみるチャンスであることを深めたいと思ひます。この取り組みは、生徒にとっては1時間に対する評価にもなるため、貴重な機会として大切にしています。</p>
---	---	--	---	---	---

6 研究の結果と考察

地域の方に直接協力・参加していただく授業では、その人の持つ思いや願い、専門的な知識や技能についての話、話すときの動作や雰囲気、表情などによって、生徒は現実感や切実感や臨場感などをもつことができ、話し手の生き方や考えに共感したり、生き方のモデルとして親近感をもったりすることができる。また、迫力の違いやことばの重さ、真剣に生きる人間の美しさなど、地域の方の生きざまは生徒の心を揺さぶる絶好の教材となっている。生徒は豊かな人生経験を持つ地域の方の話に感化されて道徳的心情が培われ、さらに、道徳的価値観を大きく揺さ振られる結果となっている。平成14年度から5年間にわたる取り組みで、次のような成果と課題が明らかになってきた。

(1) 成果

ア 共に学ぶ意味を感じられる授業の構想

地域の方との道徳授業を構想する際、シナリオ風指導案を作成しながら、いかに価値に迫らせるかを十分に考えたので、授業内容を深めることができた。シナリオ風指導案では、「〇〇について考える」「〇〇を説明する」という指導計画ではなく、どのような発問で生徒に考えさせるのか、どんな言葉で説明するのかを、台詞という形で指導案の中に記述している。話す言葉を詳細にわたってすべて書きとめるわけではないが、生徒への発問や指示、地域の方が話す内容についての概要、それらに対して予想される生徒の反応、終末部分における授業者のメッセージなど、ねらいに迫る手立ての方法を具体的に記述することになり、授業の正否はここで決まってくるように感じられる。

また、生徒の反応を予想するため、生徒理解が深まったり、授業づくりに自分らしさが出てきたりした。例えば、授業の導入部分は、生徒と初めて対面する地域の方にとっては重要な意味をもつ時間である。したがって、導入部分では本時の目的や学習の流れを伝えるだけでなく、すべての生徒が授業に対して積極的に参加できるように、発問を効果的に使って生徒を引きつけ、生徒の実態や学級の特徴を把握しやすいように心がけなければならない。また、生徒が何をどのくらい知っているのかを推測して、生徒にとって興味深い知識を提供できるよう、準備に当たることができた。さらに、地域の方の話や中心発問については、より慎重に生徒の反応を予測するため、発問がすべての生徒を授業に参加させられる有効なものであるかを計画段階で判断できるようになってきた。

イ 深い理解と学びを可能にした心に響く道徳授業の構築

地域の方と共に創る道徳授業において難しいのは、多くの素材の中からどれを授業で使い、どのような順番で生徒に提示するかである。授業にお招きする地域の方は、ねらいとする価値をいくつも含んだ生き方をしている、共有できる感動の要素が多い。つまり、一人の方から複数の内容項目について学習することが可能である。また、地域の方と協議する際に伺ったエピソードをすべて授業で紹介したり、想定していないところで突拍子もない発言や予定時間を超過した語りなどがあったりすると、授業が崩れてしまう恐れもある。

したがって、その方がもつ内容項目の精選や方向付けを的確に行うため、協議において「シナリオ風指導案」を用いたことはたいへん効果的であった。授業後に寄せられた地域の方の声の中には、「授業の流れが実際に話す台詞で示されていたため、自分の出番や話さなければならない内容を理解しやすかった」「授業におじゃまするのは今回で三度目になるが、シナリオ風指導案があると助かります。私の方から要求してしまいました。話し始めると、つつい丁寧になったり、長くなったりしてしまうし、話が脱線してしまって先生が意図していることと違う話をしてしまいそうなので…」などがあり、授業に参加する地域の方にとっても「シナリオ風指導案」が大きな支えになっており、心に響く道徳授

業を構築するためには必要不可欠なものになっていることがわかった。

授業後の生徒の感想をみると、「講師の方ってすごいと思った」「地域の方の話は、ただただすごいとしか思えないような内容でした」「隠されたドラマを知ることができてとても楽しかった。大人ってすごいと思った」「身近な人のすばらしい経験や、思いがとても強くて感動しました」など、生徒は、地域の方のものの見方や考え方、人間性に共感して、自分の生活や生き方を見つめ直すことができた。また、保護者が地域の方として授業に参加したり、保護者に向けて授業を公開したりすることで、親と子で価値の共有化を図れたり、多様な考えに気付いたりすることができた。さらに、家庭でも授業の内容について会話することができたという感想も寄せられている。そこには、学校・家庭・地域の三者が効果的に連携したり、学び合ったりするといった価値ある姿が見られた。生徒が本気で考える道德の時間の手法はさまざまあるが、生徒と教師と地域の方とで一緒に創り上げていく道德の時間は、大変有効であるということ強く感じた。

(2)課題

シナリオ風指導案の作成によって、深い教材研究がなされ、授業者の考えが明確になり、授業の質が高まってきた。しかし、授業は生き物である。シナリオは万全ではなく、あくまでも予期せぬ出来事が起こった時に、余裕をもって臨機応変に対応するための計画に過ぎない。シナリオを頑固に守るのがよい授業ではなく、あくまで目の前にいる生徒に柔軟に対応して行うのがよい授業だと考える。

また、年間指導計画に位置づけて毎年実践を重ね、うまく機能するかどうか試してみる必要がある。そして、うまくいかない箇所は、授業者が生徒に実態に合った新しい発問・指示を考え、シナリオ風指導案の完成度を高めていく。多くの発問・指示のある指導案を開発したり集めたりして、本校の宝物である地域の方と共に創る道德の時間について充実を図っていききたい。

8 おわりに

地域の方と共に創る道德授業は、教師にとっては人選から連絡調整、授業の実施と苦勞は絶えないが、教育的価値は高い。地域の方がこれまで以上に学校に関心を持ち、学校と地域とが一体となった教育を推進できるよう、道德教育の充実を模索し続けることが大切であると考え。今後も学校と地域や家庭が連携を深め、「心豊かな子どもを育てたい」という思いや願いを共通理解し、体験活動や道德の授業に共に構築するなど、開かれた道德教育を実践することによって、生徒の道德的資質を育てていきたい。

道德の時間は、あたたかな心の交流を基盤としながら、人間らしい心を育てていくものである。また、人間としての生き方をしっかり考える時間であり、さまざまな人々との出会いの中で生き方を育てていくものである。生徒と同じ地域に暮らし活躍している人々に授業に参加いただき、生徒と心の交流を図ることは意義深い。生徒は、地域の方の話を聞いて自らの生活や生き方を見つめ直すことができる。しかし、よりよく生きようという思いは実践にまで至っていない傾向もある。したがって、道德の時間はもとより全教育活動を通して、実践力を身に付けることができるような支援が必要であると思われる。

授業づくりは楽しい。授業は単なる知識伝達ではなく、教師にとっては一つの創造活動であり、授業は生徒と共に創るものであると考え。学習内容に向き合い、考えを出し合うことによって、自分自身のことを深く考え、自分との対話を深められるような授業、メッセージ性のある授業を創っていききたい。そして、道德の時間を通して、いろいろな人々のよさ、自分自身のよさを自覚し、「人間ってすばらしい」「生まれてきてよかった」という思いが深められ、心に響く道德授業を創っていききたい。